

平成23年度版

天津神社 春大祭
系魚川のけんか祭り
～ 押上区の場合(概略版) 改訂～



目 次

☆ けんか祭り（押上区）の日程

○ 4月 9日

- ・ 衣装の蔵出し

○ 4月10日

- ・ 一番太鼓～（禊ぎ）まで
- ・ 衣装配り～春大祭の祭典・登社まで
- ・ 参道到着・使い獅子から降神の祭りまで
- ・ お練りの模式図
- ・ お練りの行列の流れから神輿のけんか
- ・ 御走り・昇神の祭りまで
- ・ 御走りの模式図
- ・ 舞楽から稚児送りまで

開始時間	内 容	備 考 1
4月9日 17:30	いしろうくらだ 衣装蔵出し   	獅子は、翌日早朝から奉仕のため、前日に準備をする
20:00頃 4月10日 0:00 日の出頃	前日の準備完了し、解散する 一番太鼓(天津神社幄舎) ※ 幄舎=楽屋 ※ 太鼓本役は一の神輿の地区から出す 奥遷し(押上区では「神輿の蔵出し」と呼ぶ)	
「倉若氏が一の神輿・二の神輿を確認し、新町の甚兵衛(近藤・本家)、甚之丞(近藤・分家)が中心となって舞台に奉安する」と聞いている		
5:30 5:50	押上区の祭り奉仕者は公会堂に集合 公会堂の神棚にお参り  	天津神社神輿堂 
6:00	禊ぎのため、押上海岸へ <div style="border: 2px solid red; padding: 5px; text-align: center; color: red; font-weight: bold;"> 赤禪の禊ぎ姿を撮ろう！ </div> 	5時半を過ぎると続々と集まり、公会堂2階に上がる神棚に赤翁を先頭に全員で必勝・安全を祈願する <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> 緋色の禪を締めた赤翁が海岸を御神酒で清め、先導して海に入る </div> 
6時頃、一の神輿の宮総代(寺町区)から二の神輿の総代(押上区は総代=区長)に連絡があり、祭りの実施について協議をし、宮司に祭りを実施するかを一の神輿が連絡する		

開始時間	内 容	備 考 2
6:30頃	<p>いしよくぼ 衣装配り</p> 	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; width: fit-content; margin: auto;"> <p>奉仕者は、禊ぎの後、衣装・わらじを持ち帰る 獅子は、禊ぎの後、公会堂で衣装を着け、押上区内を払って回る</p> </div>
7:00	<p>開催の花火</p>	
7:30	<p>かなぼう しし あかじむか 金棒・獅子が揃って赤爺迎え ※ 赤爺が公会堂に移動する</p> 	
8:30	<p>祭典代表・太鼓が登社 祭り奉仕者、公会堂に集合</p>	
9:00	<p>はるたいさい さいてん はいでん 春大祭の祭典(天津神社拝殿で行われ、祭典代表等が参列)</p>  	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; width: fit-content; margin: auto;"> <p>玉串奉奠は、祭主等、役員、楽頭、稚児、一の神輿、二の神輿の順となる</p> </div>
9:00	<p>押上区、公会堂を出発 ※ 途中、押上の田原酒造と寺町の田原支店で竹を立てて休憩する ※ 寺町琴平社では竹を立てず、赤爺のみ参拝する</p>  	
<div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px;"> <p>押上区が一の神輿の時は、途中にある寺町公会堂で寺町区を追い越し、二の神輿の時は、後に続いて進む</p> </div>		

開始時間	内 容	備 考 3
10:00	<p>一の神輿、参道入り口に到着</p> <p>※ 一の宮区（宮総代と獅子）が迎える</p> 	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; width: fit-content; margin: auto;"> <p>金棒は、最近新調した物で、昔の金棒は悪さをして警察に取り上げられたと言いつたらしい</p> </div>
10:05頃	<p>一の宮区の先導<small>たいこぼし</small>で太鼓橋に到着</p>	
10:10頃	<p>使い獅子が楽屋<small>がくや</small>に到着の報告</p> 	<p>※ 楽屋 = 幄舎</p> 
	<div style="border: 2px solid red; padding: 5px; width: fit-content; margin: auto;"> <p>使い獅子と太鼓の音に耳を傾けよう！</p> </div> <p>※ 太鼓方が「しゃぎり」を詰めて打つと境内に入る</p> <p>※ 一の神輿が境内に入ると二の神輿は太鼓橋まで進む</p>	
10:20頃	<p>二の使い獅子が楽屋<small>がくや</small>に到着の報告</p> <p>※ 太鼓方が「しゃぎり」を詰めて打つと境内に入る</p> <p>※ 走路の状況により砂を撒く</p>	<div style="border: 1px solid blue; border-radius: 50%; padding: 10px; width: fit-content; margin: auto;"> <p>奉仕者の半分位が拝殿への参拝が終わった頃から「しゃぎり」に戻り始める</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: auto; text-align: center;"> <p>砂は神社で要してあるので、一の神輿の奉仕者で撒く</p> </div>
10:30	<p>舞台上で「降神<small>こうじん</small>の祭り<small>まつ</small>」</p> 	<div style="border: 1px solid blue; border-radius: 50%; padding: 10px; width: fit-content; margin: auto;"> <p>舞台上での「降神の祭り」が終了すると、祭主等は舞台から降りて、拝殿前に位置する</p> </div>

開始時間

内 容

備 考

5



あかじ
← 赤爺

祭りの主人公

とりじ
鶏爺 →



押上の赤爺（鶏爺とも言う）は、茶髪で「あっかんべー」をしている

寺町の鶏爺は、黒髪で、刀を差している

押上区では、昔、両区入乱れての喧嘩の時に、黒髪と茶髪が入れ代わったと伝えられている

押上区は、神輿の手引き等が緋（赤）色の法被、白袴は尖がり烏帽子、神輿舁き（最近では「白丁」と呼ぶ）は袖に赤色の一本線、黒法被にも市松模様の法被があったりするので区別ができる

11:00 お練り

寺町の鶏爺が舞台の北東の角に竹を立て、祭主等が拝殿前に位置すると、これを合図とするのかは不詳であるが、時を同じく、楽人が笛一管から「三ッ拍子」を奏する



①

一の神輿方しらかまの白袴は、楽人がくじんの二回目の「三ッ拍子」の「とめ」、法螺貝みつぶやし（立って吹く）を聞き、神輿を受け、押上の赤爺は稚児ちごを迎えに行く

①

②

②

二の神輿方の白袴は、楽人の二回目の「三ッ拍子」の「とめ」、法螺貝（立って吹く）を聞き、神輿を受け、押上の赤爺は、稚児行列を整え、玉椿たまつばきまで移動する

衣紋所から出てくるお稚児さんに注目しよう！





約10～15分の間、それぞれの神輿が引き手元・後押し元の綱を着ける等の準備をする



一の神輿方の準備が出来たら、寺町の鶏爺と連絡を取り、楽人の二回目の「三ッ拍子」の「とめ」、法螺貝（立って吹く）を聞き、神輿をあげる

神輿を担ぐが、走路には出ない

特に、押上が一の神輿の時は、準備が出来たら、十分に寺町の鶏爺と連絡を取る

③

楽人の二回目の「三ッ拍子」の「とめ」、法螺貝（立って吹く）を聞き、寺町の鶏爺は稚児桜を越え幄舎

寺町の鳥爺の後に、払いヌサ(幣)の神主・一の神輿の運営(実行)委員長が入る

③

東角付近まで一気に進み、一の神輿は稚児桜に移動し、押上の赤爺は拝殿東南角のやや後方に移動する

一の神輿の後のは、祭主・一の神輿の役員・一の宮役員・各区役員(区長等)が入り、押上の赤爺以下の稚児行列が後ろに付く

④

楽人の二回目の「三ッ拍子」の「とめ」、法螺貝（立って吹く）を聞き、一の神輿は幄舎東角に移動する

以後、押上の赤爺は、一の神輿の移動に合わせて移動する

⑤

楽人の二回目の「三ッ拍子」の「とめ」、法螺貝（立って吹く）を聞き、一の神輿は陵王の松に移動し、二の神輿方は神輿を担ぐ

二の神輿が走路に入る前に、払いヌサの神主・二の神輿の実行(運営)委員長が先に入る

⑤

押上の赤爺が、女面と言うことで独特の役がある本役では、長柄持ちと稚児抱きで、長柄持ちは小学1年生が当たる
稚児抱きは初めて祭りに参加する者が当たり、稚児抱きが稚児を肩に乗せ、長柄持ちの保護者が傘を持ち、子どもは保護者に添って居る



※ 楽人が法螺貝を立てて吹くとお練りは進む

開始時間	内 容	備 考 7
<p>⑥ ⑥</p>	<p>楽人の二回目の「三ッ拍子」の「とめ」、法螺貝（立って吹く）を聞き、一の神輿は玉椿に、二の神輿は稚児桜に移動する</p> <p>この時点で、寺町区の鶏爺が拝殿東南角付近に居るので、お練り参加者は全部が走路に居ることになる</p>	<p>二の神輿の後に、副祭主・二の神輿の役員・一の宮役員・各区役員（宮総代等）が入る</p> 
<p>⑦ ⑦</p>	<p>楽人の二回目の「三ッ拍子」の「とめ」、法螺貝（立って吹く）を聞き、一の神輿は拝殿東南角に移動し、二の神輿は幄舎東角に移動する</p>	<p>この辺りで、両区の実行・運営委員長が、払いヌサの神主から真榊を受け取る</p>
<p>⑧ ⑧</p>	<p>楽人の二回目の「三ッ拍子」の「とめ」、法螺貝（立って吹く）を聞き、一の神輿は稚児桜に移動し、二の神輿は陵王の松に移動する</p> <p>一の神輿は、玉椿から拝殿東南角に、二の神輿が稚児桜から幄舎東角に移動する辺りで、白袴や神輿舁き（白丁）は烏帽子を取り、袴をたくしあげ、また、手引き等は神輿につながる</p>	
<p>⑨ ⑨</p>	<p>楽人の二回目の「三ッ拍子」の「とめ」、法螺貝（立って吹く）を聞き、一の神輿は幄舎東角に移動し、二の神輿は玉椿に移動する</p> 	<p>稚児桜で稚児が舞台へと、神輿の疾走を観よう！</p> <p>一の神輿が稚児桜に進むと、稚児たちが舞台上に上がりはじめる</p> <p>一・二の赤爺・鳥爺の竹をそれぞれの栈敷に縛り付ける</p>

開始時間

内 容

備 考

8

稚児が、完全に舞台に上がるのを確認し、それぞれの神輿の準備が完了した頃を見計らい、**二の神輿の「ワァ～」**の**声**で疾走する

ワァ～

ワァ～



11:30～
12:30

神輿のけんか

神輿のけんかも
間近で観よう！



組合せの回数は、双方の
棧敷前で3回ずつの計6回を原則とする
ただし、組合せを増やす場合、
両区の実行・運営委員長の協議による



神輿の組合せは、
組ませ方の指示により、
事前の申合せのとおり、
安全に行う



12:30頃 総代・宮総代が舞台に上がる

実行(運営)委員長の指示で、
拝殿より国旗を貰い受ける



国旗は、双方の出発地点に不正がないように、一の神輿方は一の神輿の棧敷前に、二の神輿方は拝殿東南角(旧鐘撞堂)に立てる(結果的には相手方の出発地点に国旗を立てることになる)

【御走りの距離】

- ・一の神輿は、拝殿東南角から約3/4周
- ・二の神輿は、一の神輿方の棧敷前から約1周と1/4

【御走りの奉仕人】

神輿のけんかと違い、公平に行うため、決められた奉仕者数とする

- ①引き手・引き手元（15人）
- ②白袴（2人）
- ③神輿舁き（白丁）（10人）
- ④後押し（2人）



総代・宮総代が、実行・運営委員長から舞台上に差し出された真榊を受け取り、一旦、床几に腰掛ける



真榊と神輿に注意し、太鼓の音に気をつけよう！



実行・運営委員長の装束も区別が出来る

ドンデンド

おもむろに立ち上がり、一の神輿の宮総代の掛け声により、真榊を振る

【言い伝えによる勝敗の決し方】

二の神輿方のハナ（手引きの先頭）が、「一の神輿を幣殿に上げるのを見つけたら」や「走路で一の神輿を見つけたら」二の神輿の勝ちと言われている



ドンデンド

お走りを観るなら二の棧敷前。舞台と幣殿が見える！



12:30頃

しょうじんまつ 昇神の祭り

神輿が幣殿に上げられると、直ぐに昇神の祭りが行われる



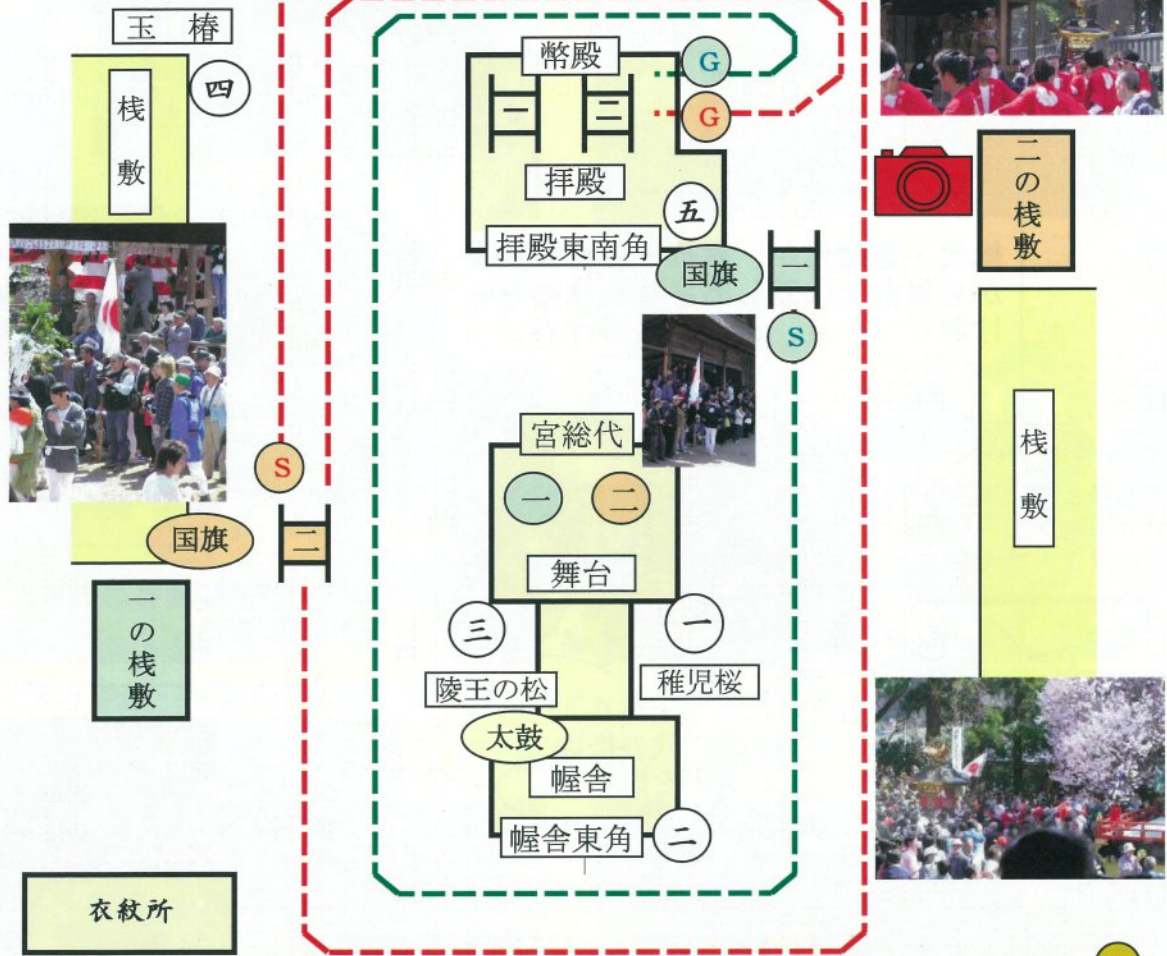
御走りと
神輿の出発位置

奴奈川神社

天津神社

10

子聖社



御走りの出発位置は、国旗によって示され、一の神輿、二の神輿は、それぞれの国旗の場所に位置し、舞台上上がった両区の総代・宮総代の合図を待つ

総代・宮総代が真榊を振るのを合図に太鼓の音は「ドンデンド」に変わり、神輿は疾走する



開始時間	内 容	備 考 11
12:30	詩歌応答が始まる	国指定 重要無形民俗文化財 (昭和55年1月28日指定) 天津神社舞楽会
13:00	稚児の舞 (糸魚川の舞楽)	
<div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 10px; width: fit-content;"> <p style="color: red; margin: 0;">10日と11日で舞楽衣装の異なる演目 (左又は上が新装束(10日)、右又は下が旧装束(11日)であり、9日は舞台慣らしとし、紋付で舞う)</p> </div>		<div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 10px; width: fit-content;"> <p>11日(2日目) 舞楽開始 13:00 舞楽終了 17:30 ※ 演目は前日と同じ</p> </div>
<div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; display: inline-block;">① 振鉾 (えんぶ)</div>		
		
<div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; display: inline-block;">④ 抜頭 (ばとう)</div>		<div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; display: inline-block;">⑨ 大納曾利 (おおなそり)</div>
		
<div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; display: inline-block;">⑫ 陵王 (りょうおう)</div>		<div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; display: inline-block;">⑩ 大納曾利 (おおなそり)</div>
		
		<p style="color: red; margin: 0;">余裕があれば、2日とも舞楽を観よう！</p>

開始時間

内 容

備 考 12

14:30頃 寺町の鶏爺（奉仕人も）は、抜頭（四曲目）の舞が終了すると帰る

寺町の鶏爺等が帰ると押上の赤爺は稚児送りの竹を切る



舞台前で、陵王の舞と稚児送りの様子を観よう！

17:30頃 稚児送り

陵王の舞が終わると舞台に一の戸から四の戸の稚児が出てくるので、獅子・金棒・赤爺・稚児抱き・長柄持ちは衣紋所まで送る

（雨天等で舞が中途になった場合は、送る稚児の数が替わる）



稚児送りの後は、太鼓本役は「ドン デン ド（御走り）」を打ち、次第に「しゃぎり」に変えていく
このしゃぎりの間、楽人の「からうす（太鼓の縁を叩く）」が始まるが、赤爺や奉仕人は「からうす」が終わらないうちに太鼓橋を渡る

19:00頃 赤爺宅に到着

赤爺の挨拶の後、万歳三唱し、解散となる



この冊子は、押上区の一奉仕人が、「天津神社 春大祭」(通称“糸魚川けんか祭り”)に訪れる見学者のために、個人的にまとめたものです。

内容については、30年を越える奉仕による経験や古老から聞いたことなどをまとめたものですが、天津神社等に関することや寺町区に関すること、また、押上区からも公認されたものではありません。

実際に、けんか祭りをご覧になって間違いに気づくことが多いかもしれませんが、個人的に作成したものでありますので、予めご了承くださいようお願い申し上げます。